

	成 果 と 課 題					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書を有効活用することで、ポイントをおさえた内容の理解を深めることができた。 日々の音読と読書の時間を確保することで、内容理解が深まった。 文字を書く基本をしっかりと身に付け、正しく書こうとしていた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 相手に伝わるような声量にするため、「ここまで届くように」と端の席を目安に意識させていく必要があった。 語彙を増やすことで、読みをより深めていく必要がある。 大事なことを落とさずに聞き取ることができるように、板書で視覚的な支援や端的に繰り返して理解を補助できるようにする。 書くことに慣れ、丁寧に書くことが減ってきたため、基本の姿勢を確認し、丁寧な取り組みをさせる必要がある。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 順序を表す言葉に注目して教材文を読み進めることで、文章の構成やまとまりを意識できるようになった。 互いの意見をよく聞き、考えを言えるようになった。 教師による視覚的な支援があることで、イメージをもつことができ、内容の理解をすることができた。 終末の活動を工夫し、明示することで、主体的に学習を進めることができた。 書写の学習を通して、日頃から字を丁寧に書こうとする意識が高まった。 全体の交流を通して、考えを広げ、深められるようになってきた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 書いた文章を読み直して推敲することが課題として残った。自分自身では直すべきところに気付けないことがあるので、複数人のグループで取り組む必要がある。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ペア、グループなどで話し合う場面を設定することで、自分の考えを広げたり、お互いの意見を交えながら考えを整理したりすることができた。 説明的文章の学習では、内容理解だけでなく、文の構成や表現の工夫についても考える機会を設定することにより、内容理解を促すために様々な工夫があることで理解を深めることができた。 学習した内容を他学年に発表する機会を設定することにより、目的意識をもち、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 読書への取り組みを重視し、読書タイムで「窪町小の100冊」の本を読み進めるように声をかけたり、読んだ本について紹介したりするなど授業で活用できるようにする。 漢字を活用することが課題である。定期的な漢字テストを実施することで習得はしているが、文章を書く際に間違いが見られるので、日記等で日 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 要約の学習ではスモールステップを設け、繰り返し行ったことで、中心となる語や文を見付け、適切に要約できる児童が増えた。 リーフレットなど多様なまとめ方を通して、効果的に伝える文の書き方を身に付けることができた。 普段から意見交流の場を設定したことで、自分と友達の考えの相違点や共通点を考える習慣が付いた。 様々な学習活動を通して多様なジャンルの本に触れることにより知識を広げることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字の定着では、個人差が大きくなってきている。毎日の漢字練習の取り組み方にも個人差が見られる。漢字指導や宿題については実態を考慮し、工夫する必要がある。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 書く学習では、目的を意識して構成メモを書いた。自分の主張を裏付ける具体的根拠を考えながら意見文を書けるようになった。 漢字の学習では、繰り返し練習し、漢字10問テスト、50問テストで定着度を測り、漢字の読み書きへの意識を高めることができた。 宿題で漢字学習に取り組みせ、定期的に漢字テストを行うことで、漢字の読み書きへの意識を高めることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 書く学習では、読み合いの活動を通じて自分の書いたものを見てもらうことでより分かりやすい文章になるか見直す機会を設けた。よい視点を明確にして行って行くことが課題である。 漢字の書き取りでは意欲を低下させないようにしながら、書く力を向上させていくことが課題である。そのために、個別に声を掛けながら対応していく。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> はじめに自分が伝えたいことを明確にしたり、構成メモの時点で視点を明確にした読み合いをする時間を設けることで話したいこと・書きたいことを筋道を立てて書いたり、話したりすることができるようになった。 文学的な文章や説明的な文章から見付けた表現のよさやおもしろさを見付けることで、自分自身が文章を書くときに活用することができ、表現の幅が広がった。 説明文の学習では、つなぎ言葉に注目させることで、文章全体の構成を考えながら読み、適切に筆者の主張を捉える力が付いた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動では、たくさんの考えが出たとき、目的や条件に照らし合わせて、時間の中で考えをまとめられるようにすることが課題である。 漢字の書き取りや語彙力は個人の差が大きく見られた。児童の意欲を低下させないようにしながら、書く力を向上させていくこと、国語辞典を活用させることが課題である。そのために、個別に

			<p>常に活用できるようにしていく。</p>			<p>声を掛けたり、意味調べが日常的になるように指導していく。</p>
社会			<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域に密着した教材を用いたことにより、児童全員が学習問題を認識するとともに、追究の意欲を持続させることができた。 調べたことをまとめる時間では、様々な表現方法を繰り返し指導したことで、はじめの単元に比べ学年末では、短時間で調べてきたことをまとめることができるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 調べてきたことから特色を考えたり、関係性を読み取ったりすることが不十分で終わってしまう場面が見られた。問いや資料を適宜用意し、視点を変えたり、焦点をしばったりして思考させ、自分の考えを持てるようにすること。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が資料から読み取ったことを全体に共有したり、習熟度に合わせた資料を複数用意したりしたことで、地図帳やグラフ、年表他、様々な資料の扱いに慣れ、資料から様々な事象を読み取れるようになった。また、資料から様々な事象を読み取ることで、社会的事象の背景には、人々の思いや工夫があることに気付くことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な社会的事象に触れることができた。それらに対する関心を高めていきたい。様々な社会的事象に対して、自分たちの町や、自分なら何ができるかなど、自分事として考えられるようにすることが課題である。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 導入において子供の身近なものや話題を提示することで興味・関心を引くことができた。 調べ学習においては、教科書や資料集を用いて必要な情報を抜き取れるようになってきた。また、見出しを付けたり、色を使ったりと、分かりやすいノート書く習慣が身に付いてきた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 子供たちの疑問や気付いたことなどを取捨選択して、子供主体で学習問題作りをしていきたい。そのために予想される児童の発言を学年で話し合うなどし、学習問題を検討したり、学習問題につながる考えを集約したりして授業に生かしていく。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 導入時における資料の選定を丁寧に行うことで、児童が課題意識をもって主体的に学習に取り組む姿が見られた。 友達と学び合ったり、調べたことを発表し合ったりすることで、学習内容を児童同士で補い合ったり、広げ深め合ったりすることができていた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 教材の検討とともに資料の提示のを工夫し、学習課題を自分事とする意識をもたせたい。

<p>算数</p>	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> おはじきやブロックなどの半具体物を使うことで数や計算についての理解を深め、正確に計算する力を身に付けることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 文章題を読み、問われている場面の意味を正確に理解できるようにすること。線を引きながら問題文を読んだり、習熟の段階で、練習問題を数多く行ったり、問題作りの活動を多く取り入れること。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 習熟度に応じたコース展開や指導をすることによって、自信をもって発言し、活発な意見交流ができた。 数量や図形の領域では、予想してから実際に測定することで、量感をイメージできるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 道具の正確な使い方を繰り返し指導したが、測定や作図の反復練習が必要である。 日常生活でも学習したことを積極的に活用し、さらに理解を深められるようにしている。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 既習事項を押さえながら学習を進めることで、掛け算のひっ算や割り算の計算の仕方を習得させていくことができた。 ICT 端末を活用することで、考えの交流が促進し、児童の考えを広げることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 習熟度別で授業を展開したが、選択したコースでのずれがみられた。各コースにおける重点指導事項を決めたり、選択したコースのずれが見られる児童には声を掛けたりしていく。 思考力を要する問題に戸惑う様子が見られたことが課題である。学校での授業より前に知識を習得している児童が多いが理解が十分でない様子が見られる。知識の習得を確実にするとともに、活用できるようにしていく。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 自力解決の時間に、式だけでなく、言葉と図も利用して自分の考えを書くことができた。 コンパスのネジにゆるみがないか、えんぴつが削られているか事前に確認をし、完成形を予想してから描いたことや家庭学習で時間を設けたことで技術の向上が見られた。 図や具体物を用いたことで、数量感覚を養うことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> コンパスの使用技術には継続した練習が必要である。 自分の意見を発表するだけでなく、友達の意見にも耳を傾け、理解を深める力を身に付けさせる必要がある。話型を示しながら交流の仕方を指導していきたい。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 習熟度別に分ける際には、本人の希望もあるが、習熟度に合ったクラスで、理解を深める指導を展開していくことができた。 2分計算等を活用しながら、小数のわり算の「商は整数で、余りまで求める。」「割り切れるまで計算する。」「上から2けたの概数にする。」など、場面に応じた解き方の理解を繰り返していきことができ、身につけてきている子が増えている。 正しく作図することへの意識は身につけてきている。 授業を振り返り、自分の考えを説明することには繰り返し指導し、できるようになってきている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 操作・数字の書き方、小数点の打ち方、\times、\div、$=$の記号の書き方に対しては、繰り返し指導することが必要である。 数学的な表現に関しては、数のしくみや概数、割合などの意味の理解が不十分である。 個別の対策と支援も必要である。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 自力解決や交流の時間を確保することで、答えを導き出す過程に面白さを感じ、数学的な考え方を伸ばすことができた。また自分と他者の考えを比較し、その考え方のよさに気付く児童が増えた。 単元評価テストでは、見直しと一緒に、なぜ間違えてしまったのか原因を考えさせることで、自己の課題に気付くことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な四則計算など、技能面で個人差が見られるため、学習内容と並行して、下学年の学習内容などを縦断的に補っていくことが必要である。 早く問題を解くことに重点をおいて学習している児童は、計算ミスが多く見られた。じっくり考えて解く習慣や見直しの習慣を身に付けさせる。
-----------	--	--	---	---	--	---

理科			<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> どの単元でも同じ学習の流れで学習を行い、「問題→予想→実験→結果→考察→結論」という流れが定着してきた。 実験前や実験中に繰り返し声を掛け、安全を常に意識して実験を行えるようになった。 観察記録の視点を確認しながら授業を進めたことで視点を明確にして記録できる児童が増えてきた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 観察記録を明確にかける児童が増えているが、引き続き指導していく必要がある。 予想を立てる場面で、これまでの学習や生活経験をもとに考えさせる指導をしていきたい。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の問いかけがあれば、既習事項や生活経験を生かしながら根拠をもって予想を立てることが少しずつできるようになった。 調べたいことを整理して、実験の計画を立てることができるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 自発的に、根拠をもって予想を立てることはまだ難しいことがある。また、結果と考察、結論の内容を区別して表現することが難しいので、引き続き、一つ一つの活動の意味を児童と確認していく。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 予想を立てるときに、導入段階で、既習事項を確認したり、身近な日常生活での経験をもとにしたりするなど、根拠を明確にして予想を立てることができた。 学年会などを通して、計画的に事前準備や予備実験を行うことで授業の質の向上につなげた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りを書かせる場面では、学習の感想や分かったことを書く振り返りにとどまってしまう。書き方を例示したり、導入部分を工夫したりして、指導していく。 安全面や実験・観察の技能が身に付けられるように、実験計画の段階で確認をしたり、実験道具の使い方の練習をしたりしていきたい。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 興味を引く導入や問題づくりを行ったことで、主体的な調べ学習ができるようになった。週末の課題で出した自主学習でも調べる児童が増えた。また、自分の生活や経験と結び付けて予想をするようになった。 実験の前に、結果の見通しを設けたことで、結果に沿った考察ができるようになった。 予備実験を行ったことで、計画の段階で安全について考えさせることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 計画に沿って正しく実験器具を操作することに課題がある。安全を意識させるとともに実際に使用する様子を見せたり、役割分担をさせたりする必要がある。
生活	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校探検を通して、学校生活が多くの人と関わりがあることに気付くことができた。 継続的にあさがおやクロッカスを観察することで、身近な自然に関心をもつことができた。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 各クラスでザリガニを飼育し、命の大切さを身近に感じさせることができた。 カリキュラムマネジメントにより、「おもちゃのせつ明書を書こう」のヒントとなる書き方を国語科「馬のおもちゃの作り方」で学習した。それを活用して意欲的に「おもちゃのせつ明書」を書くことができた。 				

	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な学校生活を支えてくれる人や家の人たちについて、自分から調べたいという意欲をもてるよう課題の提示を更に工夫していく必要がある。 気付きを全体で交流することで、児童全体の気付きの質を高めていく必要がある。 	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小石川図書館、大塚警察署、小石川郵便局へ訪問して見学し、さらに東京メトロの方にゲストティーチャーとして来校してもらい、働く人の工夫などを学ぶことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 校外学習で聞いたことや見たことをまとめるときは、全体で交流することで、児童の気付きを高めていく必要がある。 	/	/	/	/
音楽	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞の表している様子を想像しながら、拍の流れののって楽しく歌うことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの声をよく聴いて、無理のないきれいな響きで歌えるようにする。また、拍の流れののって大きなフレーズで感じながら歌えるようにする。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカで、タンギングを意識し、運指やリズムを正確に演奏できるようになった。 いろいろな楽器の音色のよさを感じ取り、合奏を楽しむことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の進度に合った個別の指導を心がけ、鍵盤ハーモニカの技能定着を図る。担任と連携して、効果的な指導をしていく。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞の情景を思い浮かべて、よく響く声で歌うことができた。 交互唱の面白さを感じ取り、強弱など様々な表現の工夫をしながら、楽しく歌うことができた。 音楽鑑賞の際、聴きとったことや感じ取ったことを積極的に発言できた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の出す声をよく聴き、きれいな声を響かせることが課題である。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 友達のよさを認め、表現することを楽しみながら進んで取り組めた。 毎回の授業で目標を明確にし、そのことに対しての振り返りを行うことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 教師が技術的な目標を設定するのではなく、児童が自らが、表現したいと思えるように、題材設定を組み立てる。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 曲想を感じ取り、それにふさわしい表現を児童が工夫して歌ったり演奏したりすることができた。 新しい題材の導入では、既習事項からの発展から入るなど、皆がわかるように一人一人の表情をみて、きちんと理解できるようにした。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 技術面の習得及び、表現を深める学びをバランス良く実施する。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> きせつの歌や文部省唱歌などで、美しい表現の基礎を身に付けて歌うことができた。 楽曲の特徴や演奏のよさを見つけて、言葉で表すことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 技術的にはできているのに、やや表現に対して、消極的になってしまふことがあった。互いのよさを認め合い、自信をもって演奏に臨めるようにする。

<p>図 画 工 作</p>	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具の使い方を繰り返し確認することを通して、基本的な道具の使い方がわかってきた。 ・多様な材料を使用する中で、技能面での向上が見られ、表現の幅が広がった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な道具の使い方・絵の具等の使い方を、その都度確認していくこと。 ・題材のテーマや材料から発想を広げる場面で、様々な例、やり方を提示することで、イメージを膨らませることができるようにする必要がある。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵の具・粘土・クレヨン・カッターなど様々な道具を使い、工夫しながら作品づくりに取り組めた。 ・実物提示・ICT機器等を用いて指導することにより、イメージをふくらませることができた。 ・カッター・版画等の用具の使い方を確認することにより、技能の向上につながった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞において、自分の感想だけでなく、友達の作品について見つけたことや感じたことを交流する時間を確保していく。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・金槌の使い方を学び、安全に使用することができた。 ・友達の作品や作品例を鑑賞することで、多くの児童が創作意欲を高くもち、熱心に取り組むことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由に発想することが得意でない児童には、より多くの作品例や技法を提示する必要がある。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味をもって、主体的に活動に取り組めるように教材研究を行い、毎回めあてを確認した。 ・個別の声かけに力を入れ、作品に対する子どもの思いが深まるよう、寄り添った声かけを行った。 ・環境設定に気を配りながら、相互鑑賞の機会を多く設定し、自分や友人の作品のよさや面白さにより深く迫れるように指導を行った。 ・用具の安全管理を行うとともに基本的な技能を確実に身に付けさせることができた。 ・ICT 作品をつくることによりプログラミングに親しみ、表現の幅を広げることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発想があまり広がらない場合には、様々な作品を紹介したりワークシートを用いて指導を工夫していく。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味をもって、主体的に活動に取り組めるように教材研究を行い、毎回めあてを確認した。 ・発想力を伸ばしていけるよう、題材設定を工夫し、児童が主体的に取り組めるように教材研究を行っていく。 ・材料や用具などからのアプローチと、児童の心に響く導入を行うなどの内面からのアプローチを行った。 ・刃物などを使う際は毎回、安全についての指導を授業前に行っている。 ・相互鑑賞の機会を多く設定し、鑑賞のポイントを伝え、造形的なよさに気が付くように指導した。 ・共同作品で ICT 機器等を使用し、友だちとの関わりの中で作品の表現の幅を広げることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別に支援が必要な児童には、丁寧に声をかけていく。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材設定を工夫し、児童が主体的に意欲をもって取り組めるように教材研究を行った。 ・個別の声掛けに力を入れ、一人一人の思いに寄り添って指導をした。 ・用具の安全管理を行うとともに基本的な技能を確実に身に付けさせた。刃物などを使う際は毎回、安全についての指導を授業前に行っている。 ・相互鑑賞の機会を多く設定し、自分や友人の作品のよさや面白さにより深く迫れるように指導を行った。 ・ICT 作品で自分の表したいことをプログラミングして表すことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材の選択については児童の実態に合っているかよく検討していく。
----------------------------	---	---	--	--	--	--

家庭					<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分でできた」という喜びを、「家族にもしてあげたい」という思いにつなげ、実生活へ結び付けることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な技能の定着のために進度の調整だけでなく、発展的な課題も用意し、個に合わせた支援を今後も継続して行っていく。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年間の題材配列を工夫することで既習事項を生かして学習を進められるようになった。その結果、「一人のできる」という自信をもつ児童が増え、実生活に結び付けることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・先を見通して準備・活動・片付けができるように、今後も継続して個に応じた支援する。
外国語	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌やチャンツ、ゲームを取り入れることで、外国語に親しむことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にALTと綿密に打ち合わせを行う必要がある。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌やチャンツに合わせて楽しく活動し、外国語に親しむことができた。 ・色や数字などは日常的に使うものもあるので、他の学習の中でも声を掛けて親しめるようにした。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・扱う単語量を段階を踏んで高めていけるようにALTとの事前に打ち合わせをしっかりとる必要がある。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業で短時間のストーリータイムを取ることで、児童は歌や動きに合わせて楽しく基本的な英語表現を身に付けることができた。 ・ICT機器や視覚教材、音声を多く用いることで、なんとなくの意味をとらえることができるようになってきた。 ・歌やチャンツ、ジェスチャーを多く使い、児童は外国語に慣れ親しむことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストーリータイムについて、事前にALTとしっかり打ち合わせを行い、苦手な児童へ引き続きサポートしていく。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き毎授業で短時間のストーリータイム行うことで、児童は歌や動きに合わせて基本的な英語表現を身に付けることができた。 ・ICT機器や視覚教材、音声などを多く用いることで、児童は文字に頼ることなく英語で何となくの意味を捉えることができた。 ・歌やチャンツ、ジェスチャーを多く用いることで、児童は英語特有の音に慣れ親しむことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したストーリータイムについて発表する機会がもてていない。他学年交流や保護者に向けてなど児童の学習意欲が高まるようなゴール設定を行っていく。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字指導に本格的に入る前に、既習の訓令式ローマ字とヘボン式ローマ字の違いについて指導したことで、児童のアルファベットに対する苦手意識を軽減させることができた。 ・基本的な教具や教材は文字に頼らない視覚的なものにしたことで、児童は負担なく学習に取り組むことができた。 ・TGG訪問に向けて事前授業をしっかりと行ったことで児童の学習意欲が高まり、訪問当日は既習の英語表現を用いてコミュニケーションを図ることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた授業時数の中で指導すべき内容が多くあるので、指導計画をしっかりと立てる。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の英語表現を用いてコミュニケーションを図る指導を徐々に入れていくことで、児童は英語で話すことに少しずつ慣れることができた。 ・新出の英語表現が用いられている歌やチャンツなどを毎授業取り入れることで、児童は耳から自然と英語表現に慣れ親しみ身に付けることができた。 ・個人で活動に取り組む時間や調べ学習をする時間以外にも友達と練習をしたり教え合ったりといった時間を設けることで、児童は友達と協力し合いながら学びをより深めることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉の課題に同時に取り組む授業展開を工夫する。また、児童同士でのやりとりを取り入れられるような単元設定を徐々に増やしていけるようにする。

<p>体 育</p>	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間等も利用し、固定施設に触れる機会を増やすことができた。 ・体育朝会の行進や整列でも、集団を意識させていくことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定施設の経験が少ない児童は、授業以外に触れようとしないので、体育カードの工夫や友達の技紹介など興味関心が高まるような工夫をする必要がある。 ・集団行動の意識も高まってきたが、列を維持できるように指導していく必要がある。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の始めに集合・整列・移動の声かけをしたことにより、集団行動を素早く行うことができるようになった。 ・体づくり運動を通して、バランス感覚を養うことができた。 ・表現運動等でお互いの動きを見合ってアドバイスし合い、交流することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒や用具を使ってのいろいろな遊びに親しむことができたが、自身の体をスムーズに操作するようになるには難しかった。個別指導だけでなく、ペアやグループで交流し教える活動を取り入れていく。 ・いろいろな動きを引き出す場の設営をより工夫していく。 ・相互に見合ったり、タブレットパソコンを活用したりしてよい動きを広めていく。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールを手で扱うゲームを増やしたことで、ボールに対する恐怖心がない児童が増えた。 ・表現運動では、音楽やカードを用いたり、心と体をほぐす運動を取り入れたりすることで、思い切り体を動かして踊る児童が増えた。 ・学び合いの中で互いを思いやる言葉かけを促したことで、自然と応援し合ったり、アドバイスし合ったりする姿がたくさん見られるようになってきた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループやペアで互いの動き方を見合うことがあまりできなかったが、学び合いの仕方の指導を始めている。 ・体育で扱った内容が日常化するよう、さらなる工夫をする。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マット運動や跳び箱運動、自分の動きを客観的に見るために、タブレットを活用した。その結果、自分の課題が明確になり、次時の練習計画を自分で考えられるようになった。 ・児童の実態に合わせた授業を計画することで児童自身が課題意識をもち、運動に対して主体的に取り組めるようになった。 ・児童から出た課題や実態をもとにルールを一緒に作成し、全員が楽しめるような単元を計画した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用は技能向上の手助けにはなったが、運動時間の確保とのバランスが難しいので、教員側がしっかりマネジメントする必要がある。 ・友だちへの声掛けという点では、もっと全体での効果的な声掛けができるような工夫が必要がある。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マット運動や跳び箱運動、ハードル走などでは、自分の動きを客観的に見るために、タブレットを活用することができた。その結果、自分の課題が明確になり、次時のめあてをもることにもつながった。 ・3～6人程度のグループで友達と見合う活動を取り入れた。互いに課題を見つけ、課題解決に向けてグループでアドバイスし合うことができた。 ・体の使い方や自分の体力について考える時間を設けた。その成果として自ら運動しようとしたり、ふり返り等でも体の使い方について考えたりしている児童の姿が見られた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・器械運動系は、技能面の差がかなりある。適切な練習の場づくりや声かけをしていく。 ・ゲーム領域では、友達と作戦を考えることができたが、加えて、自分がどう動いたらよいか考える時間を多く確保していく必要がある。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いに見合う際に視点を与えることで、自分の体の動きを理解できるようになった。また、タブレットを使って動画を撮影することで自分の課題をもつことができる児童が増えた。 ・グループでの練習や発表を採り入れたことで、お互いに教え合いながら学ぶ態度が身に付いた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動経験が少なく、授業中の感覚づくりの時間を確保する必要がある。 ・毎時間のめあてを明確にし、振り返りをさせる。
----------------	--	--	--	---	--	---

<p>道徳</p>	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問を精査することで、児童の考えをうまく引き出し、道徳的価値を深めることができた。 ・ワークシートに書かせる内容を焦点化することで、自分の考えを詳しく書くことができる児童が増えた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体発表の前にペアや小グループ内で話し合うなど学習形態を工夫したり、役割演技を取り入れるなど学習活動を工夫したりすることで、道徳的価値をより一層深めていく。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態に即して発問を検討し、板書計画を立てることで、児童の思いや考えを引き出すことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末の「自分の生活を振り返る」時間を確保できるよう、時間配分を決め、指導計画をしっかり立てる。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループでの話し合いの時間を設けることで、友達との意見交流の時間を確保し、多面的・多角的に価値を捉えさせた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材分析の際に、児童の実態に合った発問を吟味し、対話的な活動を促し、深い学びにつなげていきたい。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちやテーマに対する考えなど、多様な発問を行ったことで、児童の多様な考えを引き出すことができた。 ・友情や信頼について考えを深め、相手のことを思いやり、行動に移していこうという雰囲気が学年内に生まれた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさを見付けたり、自己肯定感を高めたりできるよう授業展開を工夫していく必要がある。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの話し合いを通して様々な意見を聞く中で、考えを深めることができた。 ・身近な話題から、道徳的価値について話し合い、多様な考えを交流することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達との意見交流の時間配分を考え、授業づくりをしていく必要がある。 ・友達の意見にしっかりと耳を傾け、考えを深める参考にするための声掛けをしていきたい。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問やワークシートを工夫することで、児童の思考を促し、考えを引き出すことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを共有するだけでなく、友達の考えから自分の考えがどのように変わったのかなどを話し合ったり共有したりする時間の確保が必要である。
-----------	--	---	--	---	--	--